

VERA

Tokyo Woman's Christian University



SPECIAL FEATURE

ウクライナをきっかけに考える「平和」と「多文化共生」

人文学科 歴史文化専攻 准教授 柳原 伸洋 /

日本 YMCA 同盟 社会協働プロジェクト 人道支援 (国際・国内) 主任主事 横山 由利亜さん /

大学院 人間科学研究科 人間文化科学専攻 博士前期課程 矢部 紬 / 国際社会学科 社会学専攻 若田部 亜季実

その光は、まことの光で、世に来てすべての人を照らすのである。
ヨハネによる福音書 1章9節

クリスマス—新しい創造の時

キリスト教センター 宗教主事

城倉 由布子 JOKURA Yuko

私たちの大学ではアドヴェント・キャンドルサービスをアドヴェント第一主日の次の日の夕刻に行い、礼拝が終わる時に合わせて本館前の2本の木にクリスマスライトが点灯します。

2019年のその時、翌年度にはキャンパスから学生の姿が消え、礼拝も動画配信となるなど誰が想像できたでしょうか。その後私たちは長い間、さまざまな困難を味わうことになりました。

そのような中でも、ほとんど人がいないキャンパスに一昨年、昨年共に本館前の2本の木にクリスマスライトが点灯していたことをご存知でしょうか。キャンパスに来ることがかなわない中、学生の皆さんの中には大学生活がままならない悲しみを嘆きながら、クリスマスライトが例年と変わらずに点灯したことを快く思わない人たちがいたことを知っています。点灯に関しての責任部署であるキリスト教センターの私たちも、学生の皆さんが大学に来られない苦悩、悲しみに鈍感であるかのような、そしてまるで豪華さをひけらかしているかのようなクリスマスライトは、ふさわしくないのではないかと逡巡しました。しかし、多くの人が困難の中いるからこそ、また遠く離れた地にて大学に足を踏み入れることができない人がいるからこそ、そして近隣の人の喜びのためにと、いつも通り美しい光を灯す決断をしました。それは単なる装飾としての光ではなく、他でもない平和の主、イエス・キリストその方を指し示す光として灯しているからです。

聖書では「光」という言葉が多く言及されています。「光あれ」。私たちは聖書の初めにこの言葉に出会います。混沌の暗闇の中に神は光を創造されたという宣言から、この世界の創造物語は始まります。その後幾多の苦難の歴史を歩んだユダヤの民は救い主の到来を待ち望みます。その救い主こそ、イエス・キリストであることを新約聖書は示しています。ヨハネによる福音書はこの出来事を「まことの光」の到来だと語り、それはこの世界がもう一度神によって新しく創られた、新しい創造物語の始まりに他なりません。

今年の春、東京女子大学で学んだ一人の女性を主人公とする映画が公開されました。『わが青春つきるとも—伊藤千代子の生涯—』です。伊藤さんは1905年、諏訪市に生まれました。英語を学ぶことによって広い世界を知りたいと1925年に東京

女子大学英語専攻部2年に編入学します。彼女は受験資金を蓄えるために諏訪高等女学校を卒業後、尋常小学校の代用教員となります。そこで貧しい暮らしを余儀なくされている生徒たちと出会うのです。「朝から晩まで働いても満足にご飯が食べられない貧しい人たち、一方では贅沢をしている人たち……。この不公平な社会をなんとか良い社会にしたい……」このように彼女は社会への問題意識を持つようになり、東京女子大学のリベラルアーツの自由な学びの中で英語のみならず、社会科学研究会の立ち上げに参加し社会を変えるための学びと実践を展開していきました。しかし、まさに彼女たちが社会科学研究会を結成したその年は、思想弾圧のための悪法「治安維持法」が公布された年でした。日本が暗黒の時代に突入していく時代に、伊藤千代子さんはじめ何人もの東京女子大学の学生たちが危険思想を持つ者として検挙されていきました。伊藤さんは激しい拷問と過酷な獄中生活に耐え続けましたが、24歳の若さで卒業がかなうことなく無念の死を遂げました。

伊藤さんの高等女学校時代の恩師であり、歌人として活躍した土屋文明は教え子の死を悼んで歌を詠んでいます。「こころざしつたふれし少女よ 新しき光の中に置いて思はむ」

伊藤さんは、まさに新しい社会、全ての人にとって平和な暮らしができる社会を創造しようとされました。土屋がこの歌を詠んだ時は、中国への侵略戦争が拡大している最中であつたと言われていています。その暗黒の時代に、しかし必ずや彼女が願った新しい良い時代が実現するという希望を「新しき光」と表現しています。

その新しい世界の創造は戦後、平和憲法の公布と共に実現しました。その闘いの中に東京女子大学の学生が少なからずいたことを誇りとし、覚え続けていきたいと思えます。

イエスが生まれた2000年前のユダヤの地はローマ帝国に支配された地域でした。イエスはその地で周縁に追いやられている人々と共に生き、時の権力者たちを批判し、武力による支配を否定しました。その行いは為政者たちの脅威となり、十字架で犠牲の死を遂げることになるのです。しかし神は、イエスを3日目に復活させました。その後、彼の人々を照らす希望の業、新しい創造の業は、神の霊を受けた人々によって受け継がれてきました。その歴史の列に私たちの大学は連なっています。

今日、世界中にそして身近なところにも、尊厳を奪われて暗闇の中に苦しむ人々、またそのために闘っている人々がいることを、夕刻に輝く本館前のクリスマスライトを見るたびに覚えたいと思えます。そして暗闇は終わりではなく始まりであることを覚えつつ、イエス・キリストのまことの光に照らされて、私たちがまた創造の業に参与していきたいと願います。✿

VERA
座談会

ウクライナをきっかけに考える「平和」と「多文化共生」

ウクライナからの留学生をサポートする学生2名と「戦争」をテーマとした研究を行っている教員、そしてウクライナ避難者支援に従事している卒業生。それぞれがウクライナ侵攻を通して考えたことについて話し合いました。



人文学科
歴史文化専攻 准教授
柳原 伸洋
YANAGIHARA Nobuhiro

北海道大学文学部卒業。東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位取得退学。在ドイツ日本大使館専門調査員、東海大学文学部専任講師を経て、2017年より現職。

日本YMCA同盟 社会協働プロジェクト
人道支援(国際・国内)主任主事
横山 由利亜さん
YOKOYAMA Yuria

1993年東京女子大学文理学部哲学科卒業。同年、公益財団法人日本YMCA同盟に就職。以来、国内外の人道支援活動に携わる。現在、ウクライナ避難者支援プロジェクトの責任者を務める。

大学院 人間科学研究科
人間文化科学専攻 博士前期課程1年
矢部 紬
YABE Tsumugi

埼玉県・星野高等学校卒業。国際社会学科国際関係専攻卒業後、JICA 青年海外協力隊として中国での日本語教育隊員を務める。2022年度より本学大学院生。本学が受け入れたウクライナ人留学生の主に日本語教育のサポートを担当。

国際社会学科
社会学専攻 3年
若田部 亜季実
WAKATABE Akimi

栃木県立佐野高等学校卒業。2020年度入学。現在、学寮の寮生委員長としてウクライナ人留学生の寮生活全般をサポート。

※敬称略/肩書き・学年等は2022年11月現在のもの

“ 「なぜ? どうして?」 ウクライナ侵攻が日本人に与えた衝撃 ”

—2022年2月、ロシア軍がウクライナ領に侵攻し、「戦争」が勃発した時、学生のお二人はどのように思われましたか?

矢部 私は以前、日本語学校でロシア人学生のクラスを担当したことがあります。戦争の一報を聞き、まず思い浮かべたのはその時の学生たちの顔でした。ロシアにはアニメなど日本文化に関心がある人が多くて親しみを感じていましたし、私自身一度は訪れてみたい国でもありました。ウクライナに関しては街並みの美しさや民族衣装のかわいさに興味を抱いていて、両国とも平和で豊かなイメージしかありませんでしたから、ロシア軍が侵攻したというニュースは大きな衝撃でした。

若田部 私も第一印象は「なぜ? どうして?」という驚きでした。ロシアとウクライナに関しては、旧ソ連の国であることなどごく一般的な知識しかありませんでしたが、この時代に国同士が

「戦争」するという事態が理解できませんでした。開戦後は主にネットニュースやSNSで事態の推移を見守りましたが、最近まで私たちと同様に平和な文明社会で暮らしていたウクライナの人々の暮らしが戦争によって破壊されていくプロセスを知ることが苦しくなることもありました。でも私たちの大学、そして学生寮にウクライナ人留学生を迎えるに当たって、自分なりに知る努力を続けようと思っています。

—「戦争」が始まった時、柳原先生はドイツ・ミュンヘンに滞在中だったそうですね。

柳原 ええ、ドイツをはじめヨーロッパ諸国がたちまち「戦争態勢」に突入していく様相を現地につぶさに体験しました。学生のお二人にとってロシアのウクライナ侵攻はまったく不意の衝撃であったようですが、ドイツのメディアではおよそ2週間前からロシア軍の侵攻の可能性を示唆する報道があり、危機感が高まっていました。ただ私もお二人とは別の意味で今回の戦争に大きなショックを受けました。それはこのまま20世紀の「力の時代」に逆行してしまうのではないかとという恐怖です。

若田部 20世紀の「力の時代」とは何ですか？

柳原 かつてナチ・ドイツがヨーロッパに多大な戦禍をもたらした第二次世界大戦においては、それぞれの国家が「力の誇示」によってぶつかり合いました。現在もテロや戦争が世界各地で勃発していますが、20世紀型の国同士が正面からぶつかり合うタイプの戦争はなくなりました。「力の時代」を終わらせようと世界は努めていたのです。しかし今回のロシアのウクライナ侵攻は、ナチ・ドイツのポーランド侵攻と共通点があります。この「力の戦争」は核戦争の危機をはらむ第三次世界大戦につながる可能性さえあると私は考えています。

若田部 私たちが突然起きたと感じた今回の戦争には予兆があったのでしょうか？

柳原 例えば、ウクライナ侵攻以前にロシアが関わったシリア内戦やクリミア戦争があり、メディアや私たち研究者もそれらははらむ危険性について、たびたび警鐘を鳴らしてきたつもりでした。しかし今回の戦争が起きてしまった……私も戦争を扱う研究者の一人として、十分伝え切れなかった悔しさと情けなさをかみしめています。

横山 侵攻開始当時のドイツの一般市民の反応はいかがでしたか？

柳原 ドイツではいち早く民間団体などによるウクライナ難民支援募金も始まりました。これまでもシリア難民などを受け入れている国でもあり、ドイツ国民はごく自然に難民支援募金に取り組んでいるという印象でした。強大な国家権力の前に個人の力は限られています。平和を望む人々が集まればそれなりの力を発揮できます。戦争を遂行しようとする「力」から平和を取り戻すためには、横山さんが所属するYMCAのような団体が果たす役割が極めて重要だと言えるでしょう。

——横山さんはウクライナとの関わりは初めてだとか。

横山 はい、私は長らくYMCAでパレスチナ難民の支援に関わっていましたが、2月24日のロシア軍侵攻時にはウクライナという国の場所さえよく知らなかったというのが正直なところです。しかし戦争勃発と同時に隣国のポーランド、モルドバのYMCAから24時間態勢で情報が寄せられ、当初は連絡が取れていたロシアのYMCAスタッフとの連絡が途絶えたことから事態の深刻さが伝わってきました。そして3月4日、日本人の知人から「ウクライナにいる母親を呼び寄せたいというウクライナ人の友人がいる。助けてほしい」という連絡が入ったのです。

——まだ戦争開始から10日ほどで日本にウクライナ避難民がほとんど来ていない時期ですよ。

横山 ええ、YMCA自体も3月に支援募金を開始したばかりで、先がどうなるか見えない時期です。でも「なんとかしよう！」とポーランドのYMCAで緊急支援を担当しているスタッフに連絡を取りました。すると自力でポーランドまで到達さえでき

ば、あとはYMCAスタッフが日本行きを支援するとの回答。2週間後、その母親は成田空港に無事到着しました。その後2,000人以上の避難民が来日し、日本YMCA同盟もその1割ぐらいの渡航支援に関わりました。現在は東京都と連携して受け入れ家族を含めた生活支援に取り組んでいます。

“相手に与えるだけでなく、相手から受け取ることも支援になる”

若田部 横山さんが難民の支援活動など人道支援の仕事に取り組もうと思った動機は何だったのですか？

横山 やはり、東京女子大学でキリスト教に会ったことがきっかけになったと思います。「QUAECUNQUE SUNT VERA（すべて真実なこと）」という言葉と向き合った大学生活を経て、困っている人を支えること、誰もが人間らしく生きるために自分ができることをやりたいと思い、YMCAで働いています。この30年間、試行錯誤の連続でしたが、誰かを励まし、役に立つことで、逆に自分が励まされ幸せを感じ、やりがいを持って仕事を続けることができました。

矢部 私たちも今回、大学にウクライナの留学生を受け入れ、どのようなサポートができるか考えています。横山さんはウクライナ避難民の方々が必要としているサポートではどのようなことが大切だと考えていらっしゃるのでしょうか？

横山 私たちのウクライナ避難民支援プロジェクトでは、募金を基にスタッフが衣食住や就業の支援から教育、医療、メンタルなど包括的な支援に取り組んでいます。今回痛感したのは、相手のニーズや生活文化をしっかりと理解しないと本当に必要な支援ができないということです。

矢部 本当に必要な支援とは？

横山 例えば国に家族を残してきた避難民にとって本国の情報は衣食住と同じぐらい生活必需品と言えるでしょう。ところが日本の行政にとってインターネットは贅沢品ぜいたくという扱いになるのです。また、ウクライナ避難民の75%は女性なのですが、女性の社会進出に関しては今や日本より進んでいる国なので、能力の高いスペシャリストがたくさんいます。ところが就業支援に際して、日本側とウクライナ人の認識に大きなギャップがあると感じました。私はウクライナ避難民の受け入れと支援を通して、逆に日本がこれから多文化共生社会を形成していくに当たってのさまざまな課題が浮き彫りにされていると感じています。

矢部 私も報道などでウクライナ避難民の就業の困難さを知り、なんとかならないのかと思っていました。相手を「知る」大切さは、日本語教師の活動でも常に感じていたことです。

——支援のプロフェッショナルである横山さんから見て、矢部

さんや若田部さんたち学生はウクライナからの留学生にどのようなサポートをすればよいと思われますか？

横山 そうですね、まずは「避難民」としてではなく、一人の人間として、あるいは友人として、留学生の声をよく聞くことが第一歩になると思います。そこからやるべきこと、できることが見えてくるはずですから。

矢部 確かにそうかもしれません。今回、私はウクライナ留学生に対して日本語指導を行っているのですが、一方的に「教える」だけではなく、私が知らないウクライナの風土や生活、料理についてたくさんの方を教えてもらいました。また、日々の何気ない会話を大切にすることでお互いの信頼感が生まれ、何か困っていることがあれば気軽に相談してもらえるような関係が築かれてきたとも感じています。

横山 まったくその通りで、私も支援活動の中で同じように感じています。実は与えることだけではなく、受け取ることも重要な支援なのです。「自分は誰かの役に立った」ということは生きる喜びの一つですから、これからも留学生といろいろなお話をし、ぜひたくさんの方を教えてもらってください。

若田部 私もウクライナからの留学生に対しては、一定の配慮はしつつも気負うことなく、一人の友人として接したいと思っていました。彼女はずっとキーウの大学で日本語と日本文化を学んできて、日本のアニメが大好き。寮の仲間とアニメ談話で盛り上がるとても明るい学生です。「日本にはずっと来たかった」と言っていました。もちろんこんなカタチでの来日は本意ではなかったでしょうし、彼女の背景に重い「戦争」が存在することは決して忘れてはいけないと思います。私自身、これまで海外の人と関わる機会がなかったこともあり、もっと国際情勢や戦争について知識を深める必要性を感じています。

柳原 そうですね。そのためにはあらためて歴史を学んでみてください。目の前で起きていることを見極めることも大切ですが、歴史的な視点を持つことで「ロシア」「ウクライナ」、そして「戦争」についてさらに深く考えることができるようになります。学生の皆さんでしたら、人気マンガ『ゴールデンカムイ』の舞台となった樺太などのロシア極東地域には、当時ウクライナからの移住者が多くいたという事実を知れば、さらにロシアやウクライナが歩んできた道のりを深く知りたくなるかもしれませんね。それぞれきっかけを見つけて、歴史的な視座から「戦争」や「平和」について考えていただけると、この分野の研究者としてうれしいです。

“ウクライナ人と共に考えたい「多文化共生社会」への視点”

——ウクライナ侵攻、そしてウクライナからの留学生との交流

を通して学生の皆さんの世界を見る目や「戦争」「平和」についての見方、考え方は変わりましたか？

矢部 はい、私はウクライナの留学生のサポートを通して、これまでは歴史の教科書で知識として知っているだけだった戦争を「自分事」として受け取ることができるようになったことに驚いています。ただ、テレビやネットのニュース、あるいはSNSでウクライナに住む日本人の方が日々発信している情報を追っていると、日々悪化する現地の状況がよく分かり、遠い日本にいる私でさえ、不安な気分になることも……。

柳原 情報疲れやネガティブな気分になったら情報との距離の取り方を考え、一歩引いた視点で考えるようにしてください。また、英語やドイツ語などの外国語ニュースは国内のメディアとは異なる視点や距離感がありますから、客観的にウクライナ情勢を見るためには有益でしょう。

若田部 私はさきほど横山さんがおっしゃった、ウクライナ避難民受け入れによって「日本がこれから多文化共生社会を形成していくに当たってのさまざまな課題が浮き彫りにされている」というお話が心に響きました。これから私たち日本人が目指すべき「多文化共生社会」についてあらためて考えてみたいと思っています。

横山 ぜひ！日本で生活している私たちだって誰も生きづらさを感じ、生き方に対する疑問などを抱えているでしょう？ウクライナからの避難民が暮らしやすい「多文化共生社会」の実現は、きっと多くの日本人にとっても生きやすい社会になるはずですよ。

柳原 若田部さんが留学生と生活している寮寮など、学寮はまさに多文化共生社会のフィールドです。そこから学べるのがたくさんあるはずですから、ぜひ寮文化の良き伝統を大切にしてください。

矢部 私は皆さんのお話から「人と人のつながり」を大切にすれば、きっと平和が取り戻せるという希望を持ちました。学部卒業後に中国で日本語教師として働いた時に感じたのは、日本のメディアで知った中国と、実際に自分の目で見て触れた中国とそこで生きる人々は、異なる部分が多くあるということでした。「国」という大きな単位だけではなく、「その国で生きる人」を知ることが平和への第一歩になるのではないかと思います。

柳原 私も今日は学生の皆さんの言葉から学ぶことがたくさんありました。「戦争を体験していない」ことは皆さんと同じ。こうしたテーマを話し合う場においてはフラットな関係だと思っています。むしろお二人のような若い世代のアップデートされた多文化共生の考えから学ぶべきことがたくさんあると思います。

横山 私も後輩たちの真摯しんしで率直な思いを聞くことができてうれしかったです。また機会があればたくさんお話ししましょう！🍀（聞き手 大谷新）

TWCU OG TALK

◆ 卒業生インタビュー ◆ Vol. 8

卒業後も学び続け、仕事をする上で必要な知識を身に付けると同時に、ライフステージの変化で得た新たな視点を生かして自分の力に変えていく、そんな卒業生からのメッセージをお届けします。



認定NPO法人 難民支援協会
藤代 美香さん

FUJISHIRO Mika
2009年3月現代文化学部地域文化学科卒業。
尾尻ゼミにて国際関係、国際政治、地域研究を学ぶ。
現在、認定NPO法人 難民支援協会の広報担当として勤務。

自分らしく生きるための 基盤となっているもの

難民を支援する団体に勤務しており、さまざまな国から日本に逃れてきている難民の方たちの法律面や生活面での支援、また社会へのアプローチとして政策提言や広報活動を行っています。私は広報担当としてイベントの企画運営などを通じて、「難民の尊厳と安心が守られ、共に暮らせる社会」を目指し、認知拡大と資金調達に携わっています。

もともと国際関係の分野に関心があり、学びたいと思って東京女子大学を選びました。今振り返ってみると、学生一人ひとりが大切にされているという実感が得られ、自分らしく過ごせた4年間でした。大学の基盤となっているキリスト教の精神が「自分らしく生きること」をよしとしているからこそ、こうした魅力的な環境になっているのだと思います。小規模でありながらちょうど良いキャンパスと学生数、そして幅広い分野から関心のある授業を選択することができ、仲間と交流しながら自身の興味ある学びを深められました。

現在のキャリアの大部分は、大学時代の学びによるものが大きく影響しているように感じています。学部で培った国際社会への知識や国内外の社会問題への興味・関心が、現在の仕事へと導いてくれました。聖書には「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ」という意味の言葉が出てきます。自分の隣人のために愛のある行動をとることはやさしいことばかりではありませんが、助けを必要とする人がいたら勇気を持って行動したい。こ

の思いは、仕事だけでなく日常の中で私の基盤の一つとなっています。

また、さまざまな物事に関心を持って取り組むことは、リベラルアーツ教育によって養われたものだと思っています。国籍や専門性など、異なるバックグラウンドを持つ方々と関わる中で、重要となるのは相手を理解することです。相手を理解するためには想像力を働かせていく必要があります。そのときに、大学時代に培った多様な視点、幅広い視野を持って考えられることはとても役立っていると感じます。

これからも難民を受け入れる社会づくりを進めるために、社会を構成する多様な人たち、周りにいる多くの方々と協働していきたいです。難民問題から見えてくるさまざまな社会問題にもアンテナを張って、自分のできることに挑戦したいと思っています。



就活 応援宣言!

Career Center's Page

第4回 就職活動をする後輩たちへの
応援メッセージ

東京女子大学は、学生一人ひとりが目標を持って充実した生活を送り、自分の適性や希望に合った生き方を見つけることができるように支援を行っています。就職活動を終えた学生から後輩たちへの応援メッセージをお届けします。

あなたらしくあなたのペースで

心理・コミュニケーション学科 心理学専攻 4年
千葉 加苗 CHIBA Kanoe

日本タタ・コンサルタンシー・サービス株式会社に内定

就活って怖いんですよね。いつ終わるか分からないし、周りの子と比べてしまっただけで焦るし、正解がないから。私もいまだに自分の出した結論が正しいかどうか分かりません。けれども、今は取りあえず頑張ってみようという気持ちで社会人になるのが楽しみです。

これから就活をされる後輩の皆さんに私から伝えたいことは、自身の長所や得意なことを過小評価しないでほしいということです。皆さん一人ひとりに長所があり、それは皆さんの個性だと思います。自分の長所は謙遜せずに自信を持って話してください。

そして、それらを存分に生かせるフィールドを探してください。

とはいえ、私も最初はどのような業界が自分に合うか分かりませんでした。そこで私は大学のキャリア・センターを利用しました。自分が好きなことや得意なこと、今まででうれしかった出来事などを聞いていただき、自分に合った職業や業界のアドバイスをいただきました。キャリア・センターでは就活のヒントや練習をいただけるので、行こうか迷っている方は勇気を出して予約してみてください。面接対策のイベントもとてもおすすめです!

また、大学3年生は就活だけの年ではないということも覚えておいてほしいです。就活は期間が決まっています。1年以上続ける方もいますし、数カ月で終了する方もいます。終わりがいいからこそ、小さな目標を立てて就活とそれ以外のことのメリハリを付けることが大切だと私は感じました。私は、その日やるべきことを終えたら友人とゲームをしてストレスをためないようにしました。皆さんも就活に浸りすぎず、目標に到達したら息抜きをして就活以外のことも楽しんでください!

メタバース(仮想空間)上でキャリアイベントを開催!

キャリア・センターは、9月12日にデロイト トーマツ グループと「未来フェス2022@東京女子」をバーチャル空間で開催しました。資生堂、サンリオエンターテインメントなど複数企業が登壇し、参加した学生たちは、パネルディスカッションやワークショップを通して企業や社会にデジタル・テクノロジーがいかに積極的に活用され浸透しているかを学びました。参加者が各自のアバターを作って仮想空間上の会場に入り、イベントはスタート。日ごろのオンラインイベントと異なり、手を振る、歓声を上げるなどのダイナミックな動きに会場は大きな盛り上がりを見せました。延べ約140名の学生が参加し、アンケートには8割を超える学生が、本イベントに参加したことでテクノロジーへの興味が高まったと回答しました。



Students

ばばたけ東女生!

自ら「問い」を立て、学びを深め、
学ぶことを楽しむ学生の姿を紹介します。

コミュニティ構想専攻の学生が、杉並区長選挙立候補者にインタビューを実施しました。
西荻窪のまちづくりを考える市民グループのメンバーとして行った活動の様子や、
インタビューを通して学んだことを語っていただきました。

国際社会学科 コミュニティ構想専攻 3年
伊藤 花織 ITO Kaori

今年7月、杉並区に初の女性区長が誕生しました。3期12年と長く区長を務めた現職候補を、数カ月前にベルギーから帰国した女性候補がわずかに187票差で破る異例の選挙でした。投票率は前回から約5.5ポイント上昇しました。つまり、前回と比較して約2万人多くの方が投票したということになります。

私は西荻窪のまちづくり団体「西荻のこと研究所」の活動として、この杉並区長選の全立候補者にインタビューを行いました。

まちのこと、子どものこと、働くこと、暮らすこと。主にこの4つを区長になるかもしれない人がどう考えているのか質問しました。今回の紙幅では質問内容について十分に紹介できないので、ぜひHPの記事や動画をご覧ください。

「西荻のこと研究所」は、西荻窪地域のまちづくりにおいて、西荻らしさの研究、にぎわいの確保、住民主体のまちづくりの実現について主に道路拡幅事業

をテーマに考える団体です。今回私たちがインタビューを行ったのは、選挙を機にまちのこれらについて住民の関心を高める狙いがあったためです。そのため、単なる政策比較の材料としてというよりも、見た人が区政を自分事として捉えられ



岸本さとこさんへのインタビューの様子。筆者は右

政治参加とまちづくり

るように質問を設計しました。

特に「女子大生」としての自分自身から今の杉並区はどう見えるのか? という視点を大切にしています。本学でのジェンダーについての学びを深める中で、「女子大生」という存在が社会で弱者の立場に陥りやすいことを学びました。

周囲の友人には十分に検討せず投票に行ってしまう人、そもそも行かない人もたくさんいました。このインタビューを通して、そうした無関心が、自分自身を含めた「女子大生」として住んで楽しくない、やさしくないまちを作ってしまう可能性があることを知りました。私たちに住みよいまちにするために、議会に立って意見を代弁してくれる人を選ぶのが選挙です。選挙が一番簡単で効果的なまちづくりの手法だと私は考えています。

インタビュー記事へのアクセスは開票日に約9万件に達しました。どの程度投票行動につながったのか効果を測ることはできませんが、見た友人たちの数人は投票へ行ってくれました。私のインタビューでまちのことを自分で決める意志を持ってきて、とてもうれしいです。

来年の4月には杉並区議選が行われます。私は、選挙管理委員会の方と一緒に若い世代に向けた選挙啓発雑誌を作成する予定です。住む人に寄り添ったまちづくりをするためにも、選挙の大切さを伝えていきたいと思っています。



西荻のこと研究所HP



【今号のテーマ】 留学生の活動報告

新型コロナウイルスの影響で中断していた渡航での留学が2022年度より再開しました。今回は、現在留学中の学生、既に留学を終えた学生、そして東京女子大学で学ぶ外国人留学生の3名が各々の経験を語ります。

私 は9月からイギリス・リーズ大学に留学しています。協定校留学制度を利用し、幼い頃から学びたかった演劇や舞台芸術を勉強しています。リーズは大学を中心に街や自然に囲まれた、にぎやかな場所です。世界中から学生が集まり、いろいろな言語も飛び交い、歩いているだけでも多くの刺激をもらいます。大学では講義や演習、授業内のディスカッションを通じて、学びを深めています。ここまでの留学生活で何事も自分から進んで挑戦することの大切さを実感しました。これからも、自分から積極的に授業やイベントに参加し、英語力を高めると共に演劇の学びに励んでいきたいと思っています。

(国際英語学科 国際英語専攻 3年 岐部 ケイティー 要子)



2 月から韓国・ソウルにある誠信女子大学校へ半年間留学しました。新型コロナウイルス感染症がまん延している中で渡航したため、入国後1週間の隔離を経て、留学生活がスタートしました。午前中は語学堂の授業、午後からは大学の授業を受けて、放課後は現地で知り合ったさまざまな国籍の友達と交流する、そんな生活を半年間送りました。私と同じように韓国に興味がある人たちに囲まれて良い刺激をもらいながら、留学生活を送ることができました。日本に帰ってきて4カ月ほどたった今も留学先で出会った友人達と連絡をとり合い、再会の日を楽しみにしています。誠信女子大学校へ実際に渡航しての留学を経験できて、本当に良かったと思っています。留学で得た多くの刺激を今後の東京女子大学での学びに生かしていきたいです。

(国際社会学科 国際関係専攻 2年 永田 啓花)



文 化人類学と日中関係に興味があり、外国人留学生として国際関係専攻に所属しています。授業を通して、歴史的な社会背景を理解することが特に重要であると学びました。卒業論文では国境を超えた人を対象として研究を進めているところです。

コロナ禍での大学生活でしたが、対面授業とオンライン授業、それぞれのメリットを感じました。このような状況でも可能な限り日本での留学生生活を有意義なものにしたいと思い、さまざま

な活動をしています。昨年は東京オリンピックのボランティアに参加し、微力ながら、選手らをサポートすることができました。また、私が所属している学生団体では、本学の学食で難民故郷の料理を提供し、売り上げの一部を難民支援協会に寄付するという活動をしています。大学時代にたくさんのことを学び、たくさんの刺激を受けています。

(国際社会学科 国際関係専攻 4年 徐 嘉媛)



第7回

ジェンダーと金融

経済学専攻 長谷川ゼミ

米国財務省、欧州中央銀行(ECB)、国際通貨基金(IMF)、世界貿易機関(WTO)。共通点は何だかご存じでしょうか。もしお答えできればあなたはかなりの国際金融通かもしれません。正解はいずれもそのトップが女性であることです。米国では連邦準備制度理事会(FRB)の副議長、民間でも大手米銀シティグループの最高経営責任者(CEO)も女性です。多くの女性が国際金融の世界をリードしています。

変革を迫られる金融の男社会

国際金融界は女性のリーダーをさらに増やすことに努めています。世界の中央銀行・主要金融機関トップの女性比率は14%だそうです。日本人の感覚からすると女性が中銀総裁や大銀行頭取の1割以上「も」占めていることに驚くかもしれません。しかし、この調査を行っている公的通貨・金融機関フォーラム(OMFIF、本部:ロンドン)は14%「しか」いないことを問題視しています。

OMFIFは毎年、世界の中央銀行や金融機関などのトップ、経営幹部、取締役などのポストを調べて「ジェンダー

バランス指数」を作成しています。

銀行部門ランキング(2022年)の第1位はカナダの銀行、第2位はオーストラリアの銀行です。大手米銀も上位に食い込んでいます。残念ながら邦銀の影は薄く、第50位にメガバンク1行が入っているだけです。

女性が切り開くサステナブルファイナンス

持続可能な社会の実現は現代を生きる私たちの責務です。そのための新しい金融のあり方がサステナブルファイナンスという形で模索されています。サステナブルファイナンスは3年次演習でもコアとなるテーマの一つであり、ジェンダー平等指数についてもテキストや動画などを使いながら学び、議論をしました。

「リーマンブラザーズがシスターズであったなら世界は違ったものになっていただろう」。2018年にこう語ったのはラガルド現ECB総裁です(当時はIMF専務理事)。金融界での男性優位が収益至上主義と過大なリスクテイク、ひいては金融危機をもたらしたのではないかという問題提起です。金融界のジェンダーバランスは機会均等の問題だけでなく、持続可能な社会のためにも必要なものと言えそうです。



「2022年ジェンダーバランス指数報告書」の表紙。女性のトップが14%しかないことがヒトの絵で強調されています

ゼミの小物



前期の授業テキストです。金融の価値観が大きく変わりつつあること、世界の潮流に日本が出遅れていることなどを学びました。環境配慮のグリーンファイナンスに加えて、人権重視ファイナンス、ジェンダー平等などサステナブルファイナンスの実例満載の内容です。



HASEGAWA Katsuyuki

長谷川 克之

国際社会学科 経済学専攻 特任教授

1988年上智大学法学部卒業、1997年ロンドン大学経営大学院(LBS)修了。日本興業銀行(現みずほ銀行)入行。国際金融調査部、ロンドン支店、調査部を経て、みずほ総合研究所(出向)。市場調査部長、チーフエコノミストなどを経て、2022年から現職。



Gauriさんの英会話クラスに参加して

国際英語学科 国際英語専攻 1年

鈴木 芽衣 SUZUKI Mei

Mount Holyoke CollegeのGauri Kaushikさんによるオンライングループ英会話レッスンに参加しました。レッスンでは、指定された単語を使わずにある動物や物を説明し、その説明の対象物の名前を当てるゲームや、質問に対する答え(YESかNO)を10秒以内に考え、その理由を英語で言うという、素早い判断と思考を必要とする訓練など、さまざまなゲームを通して英会話力を鍛えました。1レッスン1時間と短時間でしたが、とても充実した時間を過ごしました。

私は、3回のレッスンへの参加に加えて個別に連絡を取り、1対1でGauriさんと会話する機会も得ました。Harry PotterやMarvel映画作品など好きな映画の話からGauriさんのアイルランド留学経験まで、90分以上にわたり会話が弾みました。楽しかった反面、心残りもあります。それは、Gauriさんの出身地アメリカやご親戚のいらっしゃるインドについてたくさん質問して答えてもらった一方で、Gauriさんからの日本に関する質問にはうまく答えられなかったことです。Gauriさんとの交流を通して、自国の歴史や文化を理解し、英語で表現する必要性に気付きました。

入学前から大学での英語を使った国際交流を楽しみにしてきました。早速、このような機会を与えていただいたことに感謝します。これからも国際交流の場に積極的に参加し、異文化を学ぶとともに日本について発信していきたいと思っています。

Dear Gauri,
Thank you very much for your lessons.
I truly enjoyed our time together, and
I wish you all the best.



My Virtual Internship with TWCU

Mount Holyoke College
Politics and English Major

Gauri Kaushik

Before I started my internship at TWCU this summer, I was nervous. I had just finished a semester abroad and had been doing everything in-person for months, so I really wanted to be in Tokyo. I knew it would be a very different experience because TWCU was back to in-person classes, so I would be the face on the screen that just popped up occasionally. Despite my misgivings at the beginning, my internship turned out to be one of the most fun and productive experiences I've ever had. Since I received my certification to teach English as a Foreign Language, I've wanted to learn more about what it's like to work as an English teacher in a different country and what it's like to learn English as a student. Through my visits to classrooms and my one-on-one sessions with TWCU students, I learned so much about how English is taught in Japan and how Japanese students learn English. I was so impressed with the dedication and motivation all the students had towards improving their English skills. Some wanted to become more fluent in English because they were studying abroad soon, some wanted to improve their opportunities to get jobs, and some just wanted to better understand their favorite English-speaking celebrities, but regardless of their reason, they were all so driven and hard-working. They always had so many thoughtful questions to ask, not only about how to improve their English skills, but also about my Indian-American culture and my life in America. I also got to learn so much about Japanese culture and it was so interesting and informative to compare the lives and experiences of the students I talked to with how I grew up and my experience as a college student in the U.S. Even though I was online, I feel like I got to make connections with so many of the students and faculty at TWCU, which I was really grateful for. My internship this summer was such a rewarding experience, and I feel very fortunate to have met all the wonderful people I got to work with during my time at TWCU.

※東京女子大学は2004年度よりアメリカのマウントホリオーク大学と協定を結び、毎年インターンシップ学生を受け入れています。2022年度はオンラインでインターンシップを行いました。

英語センター活動報告

英語センター長／全学共通教育部長
人文学科 日本文学専攻 教授

山本 真吾 YAMAMOTO Shingo

2022年度に設置された英語センターでは、国際共通語としての英語力を養成するために全学の英語カリキュラムの検討の他、課外活動を行っています。スコアアップで受講料の払い戻しがある特別奨励金制度付きの英語学習オンラインプログラム、外国人教員による“English Talk”（前期・後期各3プログラム）の実施の他、公認の学生団体SCALE*が全学生を対象に多彩な活動を行っています。中でも、第1回のGuest Forumでは「学長に聞いてみよう—国際社会で活躍するために東女生ができること—」というテーマで、森本あんり学長による英語で



第1回 Guest Forumの様子

の講演と参加者との活発な質疑応答があり、国際社会での英語の重要性を再認識する機会となりました。そのほか、英語学習に関する個別相談、英語能力試験の説明会や対策講座などを実施しています。

* Student Committee for the Advancement and Learning of English

前期末卒業生 キャンパスを巣立つ

9月16日、前期末学位授与式を挙行了しました。
森本学長から、以下の告辞がありました。

卒業おめでとう。このキャンパスで過ごした年月の中には、コロナ感染危機への対応をはじめとして、思いもよらなかった出来事がたくさん含まれていることと思います。今から何年も何十年もたってから、皆さんはその日々のことをどのように思い出すでしょうか。人は、自分の人生を振り返るとき、それを物語のように考えます。必ずしも、誰かに語り聞かせるためではありません。自分自身で、自分の人生に納得するためです。人生には、自分の努力次第で変えられることと、そうでないことがあります。そのどちらも含めて、わたしたちの人生は神の導きの下にあります。やがて心の中でそのことを悟る日まで、それぞれの前途の上に、祝福をお祈りいたします。

2022年度 前期末卒業生数

現代教養学部		
国際英語学科	国際英語専攻	2
人文学科	日本文学専攻	3
	歴史文化専攻	2
国際社会学科	国際関係専攻	2
	社会学専攻	1
心理・コミュニケーション学科	心理学専攻	1
人間科学科	コミュニケーション専攻	1
計		12

ウクライナに関する資料展示およびミニレクチャー

図書館長
心理・コミュニケーション学科 コミュニケーション専攻 教授

唐澤 真弓 KARASAWA Mayumi

ロシアのウクライナ侵攻により、私たちは、戦争、平和、文化、社会について、深く考えることとなりました。図書館では、今ある状況に^{たいじ}対峙するために、ウクライナやロシアの文化や歴史関係資料の展示を5月9日から4期にわたって行いました。資料に触れ、幼い頃の記憶にある絵本がウクライナの昔話だったことを知った学生もいたことでしょう。また、歴史文化専攻柳原伸洋准教授によるミニレクチャーを開催しました。昼休みでしたが、60名ほどの学生参加がありました。「ウクライナ戦争の情報に疲れてしまったけれども、しかし考えつづきたい東女生へ」

とする先生のメッセージは、資料や背景を踏まえながら文化と学問により、現在進行中の歴史的出来事を考え抜くことを励ますものでした。広い意味での戦争・平和・文化・社会について学生と語り合う時間となりました。これからも、教員、学生と共同して、今起こっている問題に対峙する図書館企画を続けてまいります。



ウクライナからの学生受け入れ

東京女子大学は、一般財団法人パスウェイズ・ジャパン(PJ)、日本国際基督教大学財団(JICUF)と共同して、学びの機会を失ったウクライナの学生を支援するため、日本での学修の継続を希望する避難学生を受け入れてい

ます。2022年9月28日、ウクライナから受け入れたポリス・グリーンチェンコ記念キウ市立大学の学生1名の歓迎会を行いました。学寮の居室を提供し、学費、寮経費の他、渡航支援、生活支援を行います。

謹弔

お悔やみを申し上げます。

山口 則子先生
名誉教授
2022年5月5日ご逝去 84歳

1977年4月 文理学部 一般教育(化学)助教授就任
1989年4月 文理学部 一般教育(化学)教授就任
2005年3月 文理学部 数理学科 定年扱い退職
文理学部 教務委員長、共通教育科目主任、
図書館長など務められた。

川村 輝典先生
名誉教授
2022年6月18日ご逝去 93歳

1966年4月 短期大学部 教養科 助教授就任
1971年4月 短期大学部 教養科 教授就任
1997年3月 現代文化学部 地域文化学科 定年退職
宗教委員長、基本教育科目主任、
地域文化学科主任など務められた。

福田 一郎先生
名誉教授
2022年8月4日ご逝去 92歳

1959年4月 文学部 生物学 助手就任
1971年4月 短期大学部 教養科 教授就任
1998年3月 文理学部 自然科学系・
生物(共通教育)定年退職
教務部長、学生部長、宗教委員長など務められた。



川村輝典先生を偲んで

元 現代教養学部 教授 江口 再起 EGUCHI Saiki

川村先生が亡くなられた。享年93歳。本学で長くキリスト教を教えてこられた(1966年の牟礼の短大時代から1997年の定年まで30年間)。同時に弦巻教会(日本基督教団)をその開拓期から牧師として牧会してこられた。

東京女子大学のキリスト教に特色があるとすれば、初代学長新渡戸稲造以来の教派を越えたエキュメニカル性、そして第三代学長の石原謙以来の信仰と学問の調和性だろう。川村先生はまさに信仰と学問を体現しておられた。キリスト教の基本をていねいに学生に教え、他方ご専門の新約聖書の第一人者であられた(『ヘブル書の研究』等々、多数)。

私は先生のご定年と入れ代わりに本学に赴任したが、先生からしみじみと東女のキリスト教をお願いしますと言われた。私にはとてもその力はなかったが、先生のお気持ちには頭が垂れる思いであった。

先生の奥様川村悦子先生は、本学の同窓生でつくられた「カンターテ・ドミノ牟礼」を指導してこられ、毎年クリスマス・コンサートが開かれる。今年はきっと、先生は天国でその歌声をおだやかに楽しめることだろう。

NOTICE

2021年度決算について

事務局長
安藤 由紀美



2021年度決算

2021年度決算について、概要をご説明いたします。
事業活動収入は5,372百万円で、前年度比9百万円の増収となりました。手数料収入の増加、学生寮の利用制限解除に伴う寮費収入の回復等によります。事業活動支出は5,108百万円で、前年度比26百万円増加しました。退職給与引当金繰入額の増等が主たる要因です。また、キャンパス整備計画に基づく第2号基本金組入れを行いました。
以上の結果、基本金組入前当年度収支差額は264百万円と前年度比17百万円減少、基本金組入後の当年度収支差額は△88百万円と前年度比28百万円減少、前年度繰越収支差額に当年度基本金取崩額及び当年度収支差額を加算した翌年度繰越収支差額は1,914百万円です。今後とも財政状態の向上、安定した経営基盤の実現に努めてまいります。

※2021年度決算の詳細は、事業報告書と共に本学公式サイトでご覧いただけます。

REPORT

2022年度父母懇談会報告

9月17日(土)に、2022年度父母懇談会を開催しました。2019年度以来の対面開催となり、ようやく保護者の方々にもキャンパスに入らせていただくことができました。感染対策のため、参加できるのは一世帯一人までという制限がありましたが、午前の部・午後の部あわせて約700名が来場され、講堂での学長挨拶、学部長の現況報告会はほぼ満席となり、教職員との個別相談やキャンパス・ツアーにもごわいしました。緑あふれる美しいキャンパスと歴史的建造物や最新の学習施設をご覧いただき、また直接ご父母の皆さまにお会いすることができ、教職員一同大変うれしく思います。来年度は制限のない状態で開催ができることを願っています。

NOTICE

2023年度学費について

入学金、授業料、教育充実費、在籍料は下表の通りです。
2022年度と同額に据え置きとなります。詳細は公式サイトにてご確認ください。



(年額：円)

	入学金 (入学年度のみ)	授業料	教育充実費	在籍料 (休学中のみ)
現代教養学部 国際英語学科	200,000	760,000	300,000	140,000
現代教養学部 人文学科、国際社会学科 心理・コミュニケーション学科	200,000	760,000	260,000	140,000
現代教養学部 数理科学科、人間科学科				
大学院(博士前期課程)	240,000	540,000	150,000	100,000
大学院(博士後期課程)	200,000	540,000	130,000	100,000

NOTICE

「ウクライナからの避難学生支援」のためのご寄付のお願い

東京女子大学は、一般財団法人パスウェイズ・ジャパン (PJ)、日本国際基督教大学財団 (JICUF) と共同して、学びの機会を失ったウクライナの学生を支援するため、日本での学修の継続を希望する避難学生を、3名を上限として受け入れることといたしました。

このため、「ウクライナからの避難学生支援」奨学資金のためのご寄付を受け付けています。皆さまのご協力をお願い申し上げます。
お申し込み方法については本学公式サイトをご覧ください。下記にお問い合わせください。

【お問い合わせ・お申込先】

学校法人東京女子大学 大学運営部総務課
TEL: 03-5382-6340 FAX: 03-3395-1037 E-mail: donation@office.twcu.ac.jp
(このご寄付は、所得税法上の優遇措置を受けることができます。詳細はお問い合わせください)



REPORT

ご支援へのお礼

多数のご寄付をいただき、ありがとうございました。ご芳名のWEBへの掲載は控えさせていただきます。

同窓会からのお知らせ

同窓会主催行事に在校生、ご家族のご参加をお待ちしています。
イベント、講座をやむなく中止・延期する場合は同窓会ホームページにてお知らせします。
開催の有無を必ず確認の上、ご参加ください。
お申込み詳細は同窓会ホームページで。

東女ネットワークの会「集い」(同窓生対象)
日時: 2023年2月17日(金)

大学創立110周年・同窓会館建替えに向けて特別講演会
「新渡戸稲造初代学長が今も私たちに語り続けるメッセージ」
講師: 湊晶子 元東京女子大学学長
(1953年短期大学部英語科・1955年文学部社会科学科卒)
日時: 2023年3月18日(土) 13:30~15:00
オンライン併用
会費: 2,100円 学生600円

Tel: 03-3395-4448 Fax: 03-3395-0084
https://www.twcu-alumnae.jp/
E-mail: office@twcu.ac.jp
(9:00~17:00開館 日・月曜日、祝日休館)



表紙の場所

本館。正門をくぐるとまず目に入る、白亜の美しい建物です。第二次世界大戦中には空襲を防ぐため、チャペル・講堂、校舎とともにコールドールで迷彩が施された過去もあります。現在は創立90周年事業の一環として開設した「新渡戸記念室」があり大学の歴史的資料を展示しているほか、教室としても用いられています。12月には正面入り口前の2本の木がクリスマスツリーとして飾られます。

広報誌『VERA』定期購読のご案内

詳しくは、本学公式サイトをご覧ください。



VERA ネーミングの由来

「VERA」はラテン語で「真実」を意味します。本学の本館に刻まれている「QUAECUNQUE SUNT VERA」（すべて真実なこと）は新約聖書「フィリピの信徒への手紙 第4章8節」の中の聖句の一節で、自由な学問の場としての本学を表しています。広報誌『VERA』により、真理の探究の場である本学の「いま」、学生、教育、研究、卒業生の「いま」を伝えることを使命として、教職員および学生への公募の結果、新たな名称として採用されました。

Web アンケート

「VERA」に関するご意見、ご要望をお寄せください。QRコードよりご入力ください。



VERA

第2号／2022年度

Contents

- 02 CHRISTMAS MESSAGE
クリスマスー新しい創造の時……城倉 由布子
- 03 SPECIAL FEATURE
ウクライナをきっかけに考える
「平和」と「多文化共生」
- 06 Career
TWCU OG TALK Vol.8……藤代 美香 さん
就活応援宣言！ 第4回……千葉 加苗
メタバース（仮想空間）上で
キャリアイベントを開催！
- 08 Students
はばたけ東女生！……伊藤 花織
STUDENT PRESS Vol.5
……岐部 ケイティーン 要子、永田 啓花、徐 嘉媛
- 10 Studies
ゼミの小窓 第7回……長谷川 克之
Mount Holyoke Collegeとの
国際交流 2022……鈴木 芽衣、Gauri Kaushik
- 12 TOPICS
英語センター活動報告……山本 真吾／
前期末卒業生 キャンパスを巣立つ／
ウクライナに関する資料展示
およびミニレクチャー……唐澤 真弓／
ウクライナからの学生受け入れ／
謹弔
- 14 NEWS
2021年度決算について……安藤 由紀美／
2022年度父母懇談会報告／
2023年度学費について／
「ウクライナからの避難学生支援」のため
のご寄付のお願い／
ご支援へのお礼
同窓会からのお知らせ



2022年12月16日発行

東京女子大学

発行：東京女子大学 編集：広報委員会

〒167-8585 東京都杉並区善福寺2-6-1 TEL: 03-5382-6476 (広報課)

公式サイト

